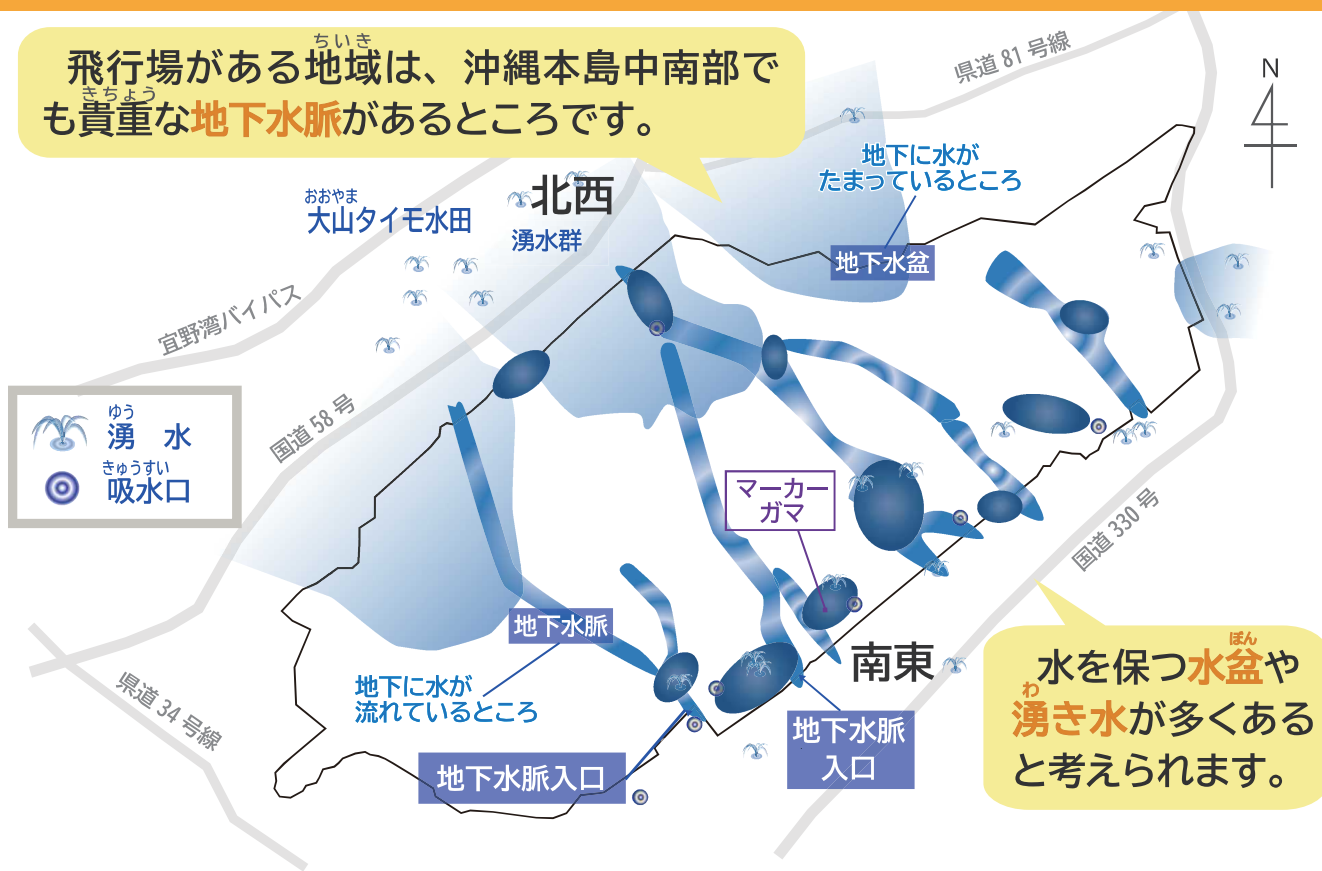


飛行場はどんな場所？（地下水）

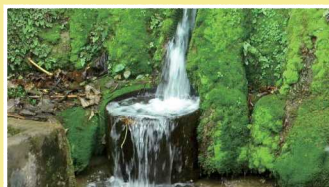
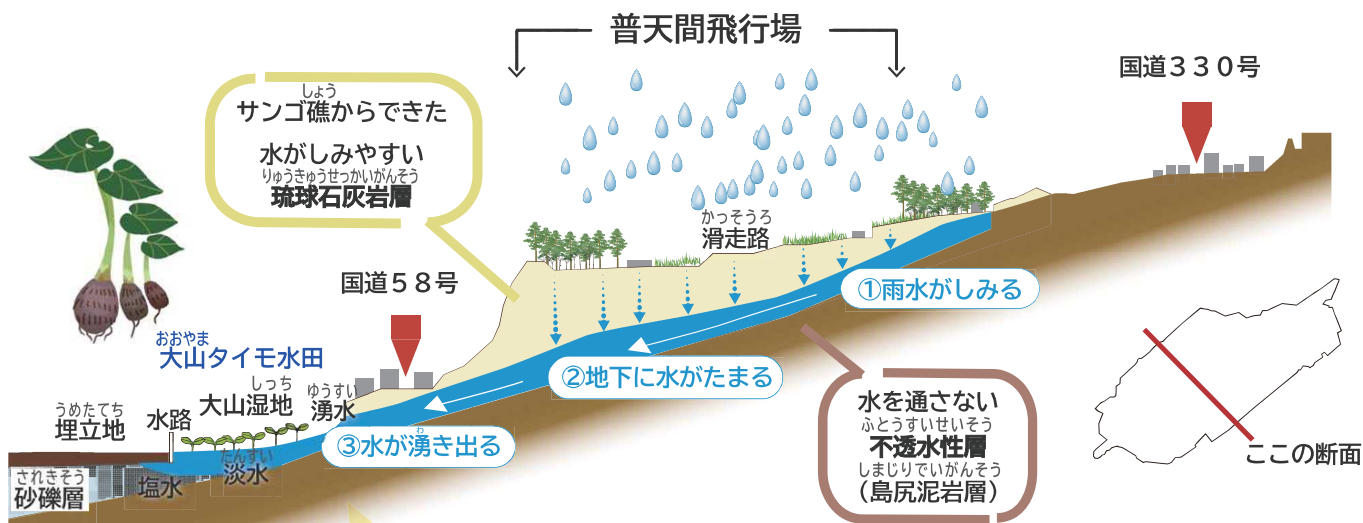
地下には水の流れがある！？

飛行場がある地域は、沖縄本島中南部でも貴重な**地下水脈**があるとされています。



水を保つ**水盆地**や**湧き水**が多くあると考えられます。

西側の豊富な湧水はここから流れてきたの！？



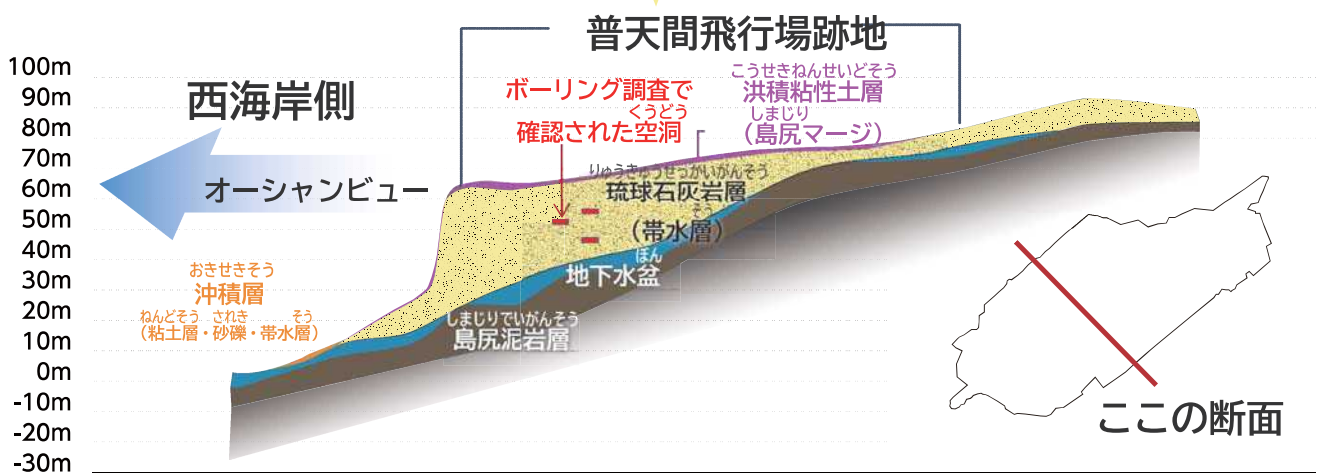
雨水が琉球石灰岩層でろ過され、地下を流れて大山タイモ水田で湧き出すと考えられます。

飛行場はどんな場所？（地形・自然）

・ サンゴ礁からできた琉球石灰岩層が地形を作った!？ ・

飛行場の西側一帯は、急勾配の斜面となっており、この高低差が西側の眺望の良さを作りだしています。

サンゴ礁からできた琉球石灰岩層は西側にいくほど厚くなっていると考えられます。厚いところでは固い地盤の島尻泥岩層まで30～40m程あると考えられており、この層の中には洞穴があると推測されます。



・ 手つかずの自然が残っている!？ ・

南東側と北西側に豊かな植生が残っており、貴重な動植物の生育の可能性があると考えられます。



西側の連続した緑地や地下水脈の入口の湧き水が多く見られる南東側の緑地は、この地特有の生態系のつながりや地下水保全においても重要と考えられます。

飛行場はどんな場所？（歴史）

昔の名残りがここにある！？

いさういーばる いせきぐん
①伊佐上原遺跡群

のだけ ばるいせき
③野高タマタ原遺跡

あらぐすくこしゅうらく
④新城古集落

あらぐすく こゆうせん
⑤新城シマヌカー古湧泉

かみやま どうけついせき
⑧神山テラガマ洞穴遺跡



かみやまくしばる あと
⑩神山後原ウシナー跡



ぎのわん こゆうせん
⑫宜野湾メーヌカー古湧泉



うえはらぬーりばる いせき
②上原濡原遺跡



あかみちとろかんばるこぼぐん
⑥赤道渡呂寒原古墓群



あかみちとろかんばるやどいこしゅうらく
⑦赤道渡呂寒原屋取古集落



かみやま いせき
⑨神山トウン遺跡



ぎのわん いせき
⑪宜野湾クシヌウタキ遺跡



普天間飛行場内には、宜野湾集落、神山集落、新城集落の3つの集落がかつて存在していました。

①伊佐上原遺跡群

約5000年前から沖縄戦前までのムラ・畑・道のあとや墓などがきれいに残っています。

②上原濡原遺跡

沖縄で最も古い（約2800年前）畑のあとだと考えられているところです。

③野高タマタ原遺跡

約500年前の畑のあとがあります。沖縄の農技術の移り変わりを知る重要な畑あとです。

④新城古集落

沖縄戦前の家の囲い（木や石積み）があり、地中には約300年前のムラのあとが残されています。

⑤新城シマヌカー古湧泉

琉球石灰岩（サンゴからできた）台地の斜面地のヘリにあるウリカー（階段でおりる形の古いわき水）です。

⑥赤道渡呂寒原古墓群

自然のほらあなや人工的にほったものなど古いお墓があります。

⑦赤道渡呂寒原屋取古集落

ここには昔の人達の生活がわかる伝統的なムラのあとが残されています。

⑧神山テラガマ洞穴遺跡

普天満宮の祭神である女神伝承を伝えるなど、大切な場所でのりの対象です。

⑨神山トウン遺跡

村の先祖を祭る石のほこらがきれいに残っており、昔のおがみを知ることができる重要な場所です。

⑩神山後原ウシナー跡

沖縄の伝統的な遊びであるとう牛。昔のとう牛をした場所がきれいに残っているただ一つの場所です。

⑪宜野湾クシヌウタキ遺跡

ウタキ（御嶽）は祖先をまつところ です。

⑫宜野湾メーヌカー古湧泉

わき出た水は飲み水、お風呂、洗濯の水の3つの水そうに流れ込み、ムラ人たちの生活に欠かせない場所でした。

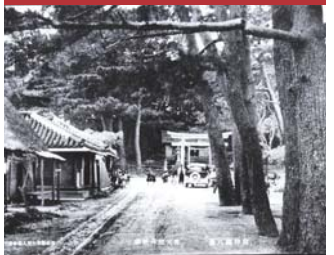
⑬神山クシヌカー古湧泉

わき水は生活用水だけではなく、産湯・死者の浴水・はしかの手当にも使われていました。

⑭宜野湾並松街道

琉球王国時代、首里から普天満宮へお参りするの道でした。約3000本の琉球松が植えられその美しさから国の天然記念物に指定されていました。現在は残っていません。

ふてんまぐう
普天満宮



飛行場はどんな場所？（集落）

地形と緑を活かした集落のひみつ

普天間飛行場となる前の集落の模型を製作し、昔の人たちの生活の知恵を明らかにしました。

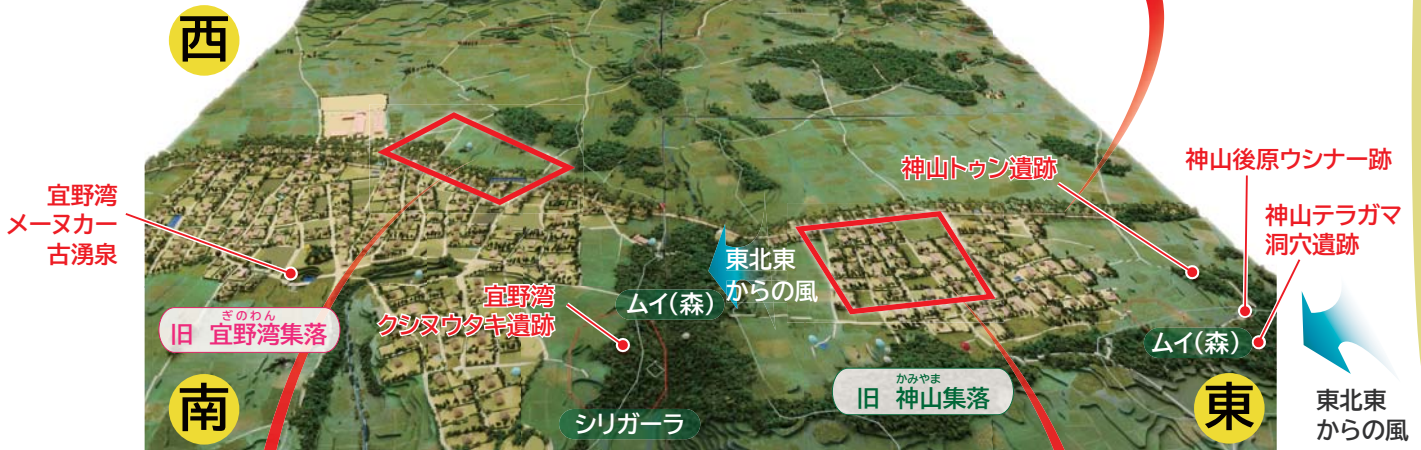
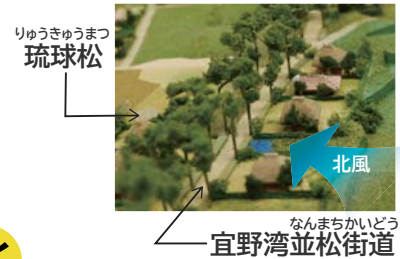
西側斜面の緑地

西側の斜面にある緑地は、西海岸から強くふき上げる海風を和らげています。



宜野湾並松街道

並松街道は、普天満宮へお参りに行く道の景色づくりだけでなく、北風を和らげる効果を上げるために琉球松が植えられたと考えられます。



ムイ（森）とシリガーラの斜面にある緑地は、東北東からふく風から、それぞれの集落を守っていました。

農地を風から守る緑地

まとまった緑地やついたてのように木が植えられたところは、農地を北風から守るためと考えられます。



家の向きと屋敷林

集落の屋敷は、そのほとんどが南側から入る づくりでした。北側には屋敷林があり、冬は冷たく強い北風をさえぎり、夏は涼しい南風を取りこんでいました。屋敷林の他にも、石がきの屋敷囲いや、土塀の上に屋敷林を植えていた家も多くありました。

